

養父市立高柳小学校 令和5年度学校評価

1 本年度の学校教育目標

「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」

2 本年度の学校重点目標

①ふるさとの自然・人・文化に学び高柳を誇りに思う児童の育成 ②主体的に「生きる力」を育てる ③安全、安心な学校づくり

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

分野	評価項目・取組内容	本年度評価	学校の取組状況・改善の方策
学校運営	開かれた学校づくり	A	授業参観や学校行事を予定通り実施し、教育活動の様子を公開できた。HPの更新も頻繁にできた。学級通信がオンライン配信されるなど、保護者にとって読みやすくなる工夫も行う学年が増えてきている。今後も連絡帳や学級通信などで児童の様子を伝えていきたい。
	危機管理体制の整備	A	定期的避難訓練が行われ、その様子を家庭にお知らせすることができた。引き渡し訓練も毎回問題点を改善しており、この冬の警報による児童の保護者引き渡しも、臨機応変に行うことができた。また、本年度は不審者対応訓練を警察の協力を得て実施することができた。
	教職員の資質向上と勤務の適正化	B	本年度は研究授業を行っていないものの、マンスリーレポートや授業公開ウィーク、サポート研修などでICTの授業活用に係るスキルの向上をはじめ、様々な面で教職員の資質向上につながる取組みが頻繁に行われた。今後お互いに切磋琢磨し、情報を共有しながら様々な能力の向上を目指したい。
学習指導	基礎基本の定着と個に応じた学習指導の充実	B	自学ウィークなどを通して、自主学習に熱心に取り組むなど、どの学級も学習に向かう気持ちが向上してきた。10分間の学習タイムも毎日の積み重ねとして力になっている。他学年のICTを使った取組等を共有しながらさらに効果的な学習活動を行っていきたい。
	読書活動の推進	A	ボランティアさんによる読み聞かせ、おすすめ20冊読破、朝読書の取組、授業中の読み聞かせなど積極的に取り組めた。また本年度、貸出のデジタル化により、児童が何を借りているかわかりやすくなった。また、PTAとも連携し、読書への意欲向上が図れたが、個人差があるので普段から声掛けをしていく。
	道徳教育の充実	B	授業の内容を日常生活に生かせるよう、授業の振り返りに力を入れた。また、本年度も全学年で一斉に道徳の授業公開が実施できた。さらに、副読本の親子読書にも取り組み、よい意見がたくさん寄せられた。
	人権教育の推進	B	人権標語や作文に取り組み、人権発表会や作品を校内掲示したことなどで人権意識を高めることができた。今後もニュースや児童の行動をなど身近なところからみんなが人権を考える機会を作っていきたい。
	外国語教育の取組	A	ALTやJTEと協力して授業を進めることができ、子どもたちも力をつけている。効果的な学習活動を行うため、あまり時間が取れない中、ALT等と打ち合わせやメッセージのやり取りなどを積極的に行い、効果的な授業を組み立てることができている。低学年もALTと4回の外国語活動体験を入れた。
	体力の向上と健康への習慣づくりの推進	B	朝の時間の「パワーアップタイム」や体育の時間「ヤップアップ体操」などの取組を通して、基礎体力の向上を行っている。野外でも学級遊びをよく行っているが、今後も児童会を中心に、休み時間等全校で取り組む運動や遊びを計画していきたい。
	基本的な生活習慣の確立	B	高学年を中心に一生懸命そうじをすることができた。昨年度から始まった掃除時間の音楽が、取り組みのスイッチになっており、音楽に合わせて作業を進める時間配分なども考えられている。挨拶に関しては個人差があるので日常的に指導し徹底していく必要がある。
生活指導・その他	お互いを認め合ういじめのない集団づくり	A	様々な働きかけによって、全校生で歯に対する関心が高まっているように感じられる。養護教諭を中心にしっかりとした取り組みができており、児童の委員会の活用、学校歯科医や歯科衛生士、栄養教諭との連携により効果的な指導ができていく。
	子どもの内面理解に基づく指導	B	日々学校生活を送る中で、様々な問題が起こっているが、何かあるたびに早期発見早期解決を目指して取り組んでいる。また、縦割り活動を活発に行うことにより良好な人間関係を構築するよう努めた。教師は常にアンテナを高くし、児童の些細なサインも見逃さないよう努めなければいけないと考える。
	子どもの内面理解に基づく指導	A	定期的な生活指導委員会や子どもを語る会を開催し、全職員共通理解しながら指導することができた。生活アンケートの結果に応じた指導をすぐ行ったり、子どもの話を機会を見て聴くことを大切に、子ども心に寄り添った指導に今後も努めなければいけない。
	家庭・地域との連携	B	「そうあんくんの日」の取組について、おうちの人のコメントから、お手伝いや読書を頑張っている様子やうかがえた。今後もグッドメディアや自学の内容など、保護者の理解と協力を求め、連携して推進できるように、引き続き啓発が必要である。
	連携教育	B	6年生中学校登校や自学ウィークなど、中学校を見据えた学習に努めることができた。こども園との連携も教員がこども園に行き園児の実態把握を行ったり、1・5年生が七夕集会や55交流など交流活動をしたりすることができた。今後もこういった園小連携を行う機会が就学児理解に今後も努めたい。

(学校自己評価・学校関係者評価)

4 総合的な学校関係者評価

・先生方は熱心に指導されている。特にICTに関しては時代の流れにのって様々な場所で活用した授業が展開できている。また、地域学習も大変盛んに行われおり、今後も学校と地域が協力して様々な活動を展開していきたい。  
 ・早急に対策を練らなければいけないことはないが、今後高柳小学校も児童減が懸念されている。話題に出して考えていかなければいけない。

学校自己評価の適切さ

・地域学習についてだが、本年度もたくさんの地域の人々に支えられ、たくさんの学習ができているようで喜ばしい。継続して交流している場所だけでなく、新しい施設や人が学校教育に参加して下さっているようで何よりだ。今後は自治協議会が計画している「しめ縄づくり」や「食育交流会」も学校教育の一環として取り組めるよう計画していきたい。  
 ・学級通信などをオンラインで配布する試みがあるが、児童の様子をカラーで見ることができてもありがたい。今後はペーパーレス等環境面からもこの取り組みを拡大していく方向でお願いしたい。また、ホームページの更新も頻繁でありがたい。  
 ・今年度始まったバス通学だが、地域の方のご尽力により上下両方のバス通学が実現した。子ども保護者共にとっても喜んでいる。ただ、今後運動不足による肥満や体力低下に関して注視していく必要がある。  
 ・教職員の資質向上について、ICTの研究について一年間でこれだけたくさんの取組ができていくことは大変素晴らしいことである。ただ、ICT機器の長時間使用による視力低下の問題もあるので、注意して取り組んでいっていただきたい。  
 ・昨今児童の体力低下が懸念されている。また、授業中の姿勢保持が難しい児童がいると聞く。高柳小学校では始業前のパワーアップ体操や体育の時間のヤップアップ体操などに取り組んでおられるようだ。続けて取り組むことで効果が現れることを期待する。  
 ・今、児童数がどんどん減っていき、競争するという体験が少なくなってきたり、地域としても心配している。  
 ・本年度PTAと協力し、親子でおすすめの本をプレゼンテーションする活動をおこなった。選ばれた本は実際に購入し図書室に置いたが、大変好評で、児童の読書意欲につながったと聞き大変喜ばしい。また本年度図書室の貸し出しのデジタル化を行ったようで、これによりさらに貸し出しが活発になったと聞く。図書室の本はとても多いので、先生方は大変な苦勞をされたことと考える。  
 ・ICT教育に関して孫や子の様子を見ていたら、この一年先生方が熱心に取り組まれたことがわかる。子ども達は本当に様々なことを大人より早く吸収する。それゆえに情報モラル等の学習も積極的に取り入れてほしい。  
 ・大谷選手から寄贈されたグローブが話題になっているが、彼が目標達成のために活用した曼荼羅チャートのように、子どもたちにも夢に向けて具体的に目標を立てさせる学習が必要と感じる。  
 ・高柳小学校の子たちはとても元気がよい。地域の公園などでも力いっぱい遊んでいる姿を目にする。見ていてとてもほほえましい。ただ遊ぶ場所が少なくかわいそうだと考える。交通安全に気を付けてこれからも元気に育ってほしい。  
 ・挨拶についてはまだ課題があると考える。朝の挨拶も地区によって差がある。高学年がリードして、みんなが元気に挨拶ができるようになってほしいと考える。ただ、個々の特性も考えて、朝の挨拶から心情を探ったり、声が出るようになったらその成長を喜んでほしい。  
 ・挨拶については家庭にも啓発していく必要がある。挨拶の基本は家庭からである。災害とかも多い昨今、ある小学生の作文に朝当たり前のようにする挨拶がいかに尊いことかを書いたものがあった。今を大切に生きる心情も併せて育ててほしい。  
 ・いじめに関して、高柳小学校ではほぼ起こっていないようだが、いじめをする側はもちろん、傍観者もいじめているのと同じだから、その子を助けるためにも行動が起こせる子を育ててほしい。